

志賀町学校教育モデル

志賀町教育目標

自主 自立 共生



イングリッシュサマーワークショップ 志賀小学校



ふるさと学習 富来小学校



協働的な学び 志賀中学校



協働的な学び 富来中学校

令和 8 年度版

志賀町教育委員会

『志賀町 学校教育モデル ver.2』の実践について

志賀町教育委員会では、令和元年から3カ年をかけて、学指導要領改訂に伴う教育課程、志賀町の小中学校の特色（志賀地域、富来地域にそれぞれ小中学校1校ずつ）、少子高齢化や小学校統合による生涯学習関係の組織や行事への対応などから、志賀町の地域性を活かした新たな学校教育モデル『志賀町学校教育モデル』の編成を進めて参りました。

そのねらいは、めざすべき志賀の子ども像の実現に向け、取り組むべき施策の考え方を重点化・焦点化し、知・徳・体の調和のとれた子どもの育成やふるさと志賀へ愛着と誇りが持てる教育を推進していくことであります。

そして、令和4年度から本格実施し、4校での共通理解・共通実践を進めて参りました。ここ3年間の実践により、全国学力状況調査や県基礎学力調査の結果、日々の授業での子どもたちの学びに向かう姿にも、その成果が現れてきております。

しかし、教育情勢は、令和の日本型学校教育へ、GIGAスクール構想事業第2期へと、新たな段階へ進もうとしています。そこで、3年間の取組を総括し、令和7年度から、モデルをバージョンアップし、次の段階へ進むこととしました。Ver.2では、これまでの4校による共通実践（横軸）にクロスし、志賀小中・富来小中単位で、9年間での学び（縦軸）に重点をおいた実践を進め、教育モデルの充実を図るものであります。

さらに、富来小中では、小中一貫教育学校の開設に向け、特色ある教育課程の編成につなげるものであります。

富来小中連携の様子



志賀小中連携の様子



志賀町学校教育モデル

志賀町教育大綱

志賀町教育目標 自主・自立・共生

■学校教育

- 自ら課題を見つけ・学び・考え・判断できる力の育成を目指します。
- 次代を担う子どもたちの健全な育成やふるさと教育が図られるよう、教育環境を整えます。

■生涯学習

- 地域の伝統文化、生涯学習、スポーツなどの活動への支援やそれらの活動通じた交流により、生きがいを持って、いきいきと生活できる環境を整えます。

■めざす子ども像

- 自ら学び、考え、創造する子
- 正しく判断し、責任を持って行動する子
- お互いに認め合い、高め合う子
- 志賀町に誇りを持ち、ふるさとを愛する子

何ができるようになるか（育成する資質・能力）

志賀町のめざす子ども像の実現に向けて、取り組むべき施策の考えを重点化・焦点化

志賀町学校教育モデルの実践により、めざす子ども像を実現

志賀町学校教育モデル

何を学ぶか（内容）

志賀 学習プログラム

- ・外国語教育（外国語活動・英語科）
- ・ふるさと教育
- ・情報教育（プログラミング教育）
- ・道徳教育
- ・キャリア教育（特別活動）

どのように学ぶか（方法）

志賀 学習スタイル

- ・志賀小・中 学習スタイル
- ・富来小・中 学習スタイル
- （基本となる学習方法）
- （指導方法）
- （家庭学習）

学びの土台（学校・地域連携）

志賀 学習ベース

- ・小中連携事業（児童会・生徒会活動による児童・生徒交流）
- ・特色ある連携事業
（PTA懇談会、ノーテレビ・ノーゲームデー、親子読書）
- ・生涯学習事業、行事
（世代間交流事業、スポーツ大会等開催事業、大学との地域連携推進事業）

協 力 ・ 連 携

家 庭 ・ 地 域

志賀 学習プログラム 外国語教育

英語で伝え合い、コミュニケーションを図ることができる実践的英語力の育成。

めざす児童・生徒の姿

英語を積極的に使って相手とコミュニケーションを図ろうとする態度の育成

<小学校低学年>

簡単なあいさつができ、簡単な英語を聞いて、身の回りの物について楽しみながら真似て言うことができる

<小学校中学年>

簡単な英語を用いて、自分や相手のこと・身の回りの物について、質問したり答えたりできる

<小学校高学年>

自分や相手のこと・身の回りの物について、その場で質問したり答えたりして短い会話ができる

<中学校>

日常的もしくは社会的な話題について、即興的に考えや理由を伝え合い、質問しながら会話を継続できる

育成に向けた 4 つの柱



スモールトーク

英語で伝え合い、
コミュニケーションを図ることができる力



English Summer Workshop
(外国語教育 夏事業)

中学校における外部試験の活用

生徒が客観的に自分の英語力を確認し、段階的な目標を持って、主体的に学習に取り組むことができるようにします。

・英語検定 ・GTEC

小中における指導の接続

小中で定着させたい対話スキルを明確にし、段階的・発展的にコミュニケーション力が育成されるよう、系統性をもって指導していきます。

・スモールトーク ・ALTとの英会話

Repeating

Reaction

Questions

ALTの効果的・弾力的な運用

週1回、各学級にALTを2人配置するなどし、ネイティブと英語で対話できる場面をより多く設定していきます。

・デモンストレーション ・スモールトーク
・ALTとの英会話 ・インタビューテスト

英語力に応じた授業づくり

児童・生徒の英語力に応じた言語材料をもとに、相手・目的・場面・状況を設定し、必要感や相手意識をもたせた授業づくりをしていきます。

・デモンストレーション ・スモールトーク

Smile Eye contact Clear voice Gesture

志賀 学習プログラム ふるさと教育

「志賀町ふるさと教育」は、志賀町の持つ伝統、歴史、自然、食文化、産業などの多様な素材や人材を活用し、志賀町について学ぶことを通して、ふるさとに愛着と誇りを持つことをねらいとしている。志賀地区、富来地区の特色を活かしながら地域と密着した探求的な学習を、主に「総合的な学習の時間」を活用し、小・中学校9年間を見通した学習を進めている。

学習テーマ一覧

学年	主な内容
小 学 校	1年 昔遊び（志賀町老人クラブ） 志賀町の民話（枇杷の会）
	2年 志賀地区（ながもち石・神代川の河童） 富来地区（天狗の腰掛松・稲束に腰掛けたお坊さん）
	3年 志賀町の伝統行事 志賀地区（矢駄の獅子舞など） 富来地区（八朔祭り・福浦祭りなど）
	4年 志賀町を発展させた人 志賀地区（坪野哲久・雄谷家など） 富来地区（加能作次郎・日野長兵衛など）
	5年 志賀町の自然と環境 志賀地区（トミヨ・ころ柿など） 富来地区（富来の鮮魚類・カネヨ醤油など）
	6年 志賀町の魅力発信 志賀地区（大島キャンプ場など） 富来地区（増穂浦海岸など）
	中 学 校
	1年 志賀町の歴史と伝統 志賀中学校→富来地区 富来中学校→志賀地区
	2年 志賀町の産業
	3年 これからの町づくり

NEW

令和7年度から各地区で、中学校の総合的な学習の時間の発表会を小学生が参観する取組が順次スタート！

中学校同士の連携も視野に入れて計画していく。

小学校3年生から**専用ファイル**に学習したことを綴り、中学校まで持ち上がっていくことで、学習の足跡が残るようにする。

ふるさと教育部会で自作の映像資料を作成し、より地域に密着した教材開発を進めている。

（「坪野哲久」「加能作次郎」「北前船」「能登中核工業団地」「志賀町の海岸」「特産物」「祭り」を作成済）

ぜひご活用ください！



～昨年度の主な取組～



自分たちで田植え・稲刈りをしたお米を販売した。

（志賀小・富来小5年生）

「道の駅がもっとにぎわってほしい！」という思いをもち、名産品のキャラクターとポスターを作成した。（富来小2年生）



地元食材の生産・加工の方法や持続可能な社会にしていけるための企業の取組を知り、自分たちにできることは何かを考えた。（志賀小6年生）

富来地区の歴史や伝統、自然環境などについて調べ学習を行った。全体発表会では、「又次の会」会長の松山宗恵さんを講師に招き、講評をいただいた。

（志賀中1年生）



地域の人を元気にすることを目的とし、仮設住宅で交流会を企画し、実施した。（志賀中2年生）

地域の人を元気にすることを目的とし、高齢者施設で交流会を実施した。（富来中3年生）

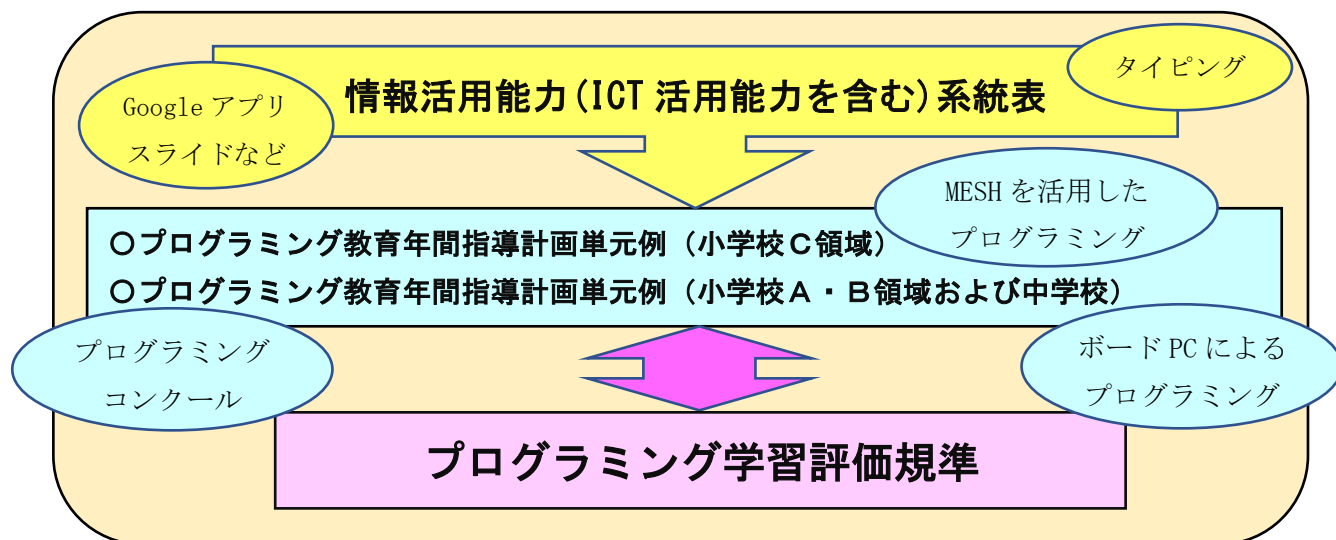


↑ 特産物

NEW 祭り

志賀 学習プログラム 情報教育

現行学習指導要領で新たに導入された「プログラミング教育」の充実を主な目的として、各学校が情報教育を円滑に行うための一助となるよう、プログラミング学習のねらいを明確化したうえで以下の学習プログラムを作成し、志賀町の子どもたちの実態に合わせた情報教育活動を推進します。



情報活用能力系統表

情報活用能力系統表は、小学校 1 学年から中学校の各段階までに必要な ICT スキルを示したもので、これにより児童生徒が、コンピュータを活用する力と正しく安全に扱う力を身につけられるようにしています。



情報活用能力系統表

キーボード入力の例

小学1年	2年	3年	4年	5年	6年	中学校
パスワード入力	フリック入力 (ひらがな)	ローマ字入力	ローマ字入力 1分間20字	ローマ字入力 1分間A規準40字 1分間B規準20字	ローマ字入力 1分間A規準60字 1分間B規準40字	ローマ字 1分間60字

プログラミング教育年間指導計画単元例

「プログラミング教育年間指導計画単元例」は、プログラミング学習の具体的な例や指導法について、具体例を示したものです。学習段階として、「C 領域」で、プログラミングスキルを身につけ、そのスキルをもとに授業の中のプログラミングを通して「A・B 領域および中学校」において論理的思考まで含めたプログラミング的思考を養えるように編成しています。

プログラミング学習評価規準

情報活用能力およびプログラミングスキルのねらいと評価規準を示したものです。各学年では、これらの目標が達成されているかを検証しながら活動を進めることで、つけるべき能力を身につけて次の学年に進むことができます。

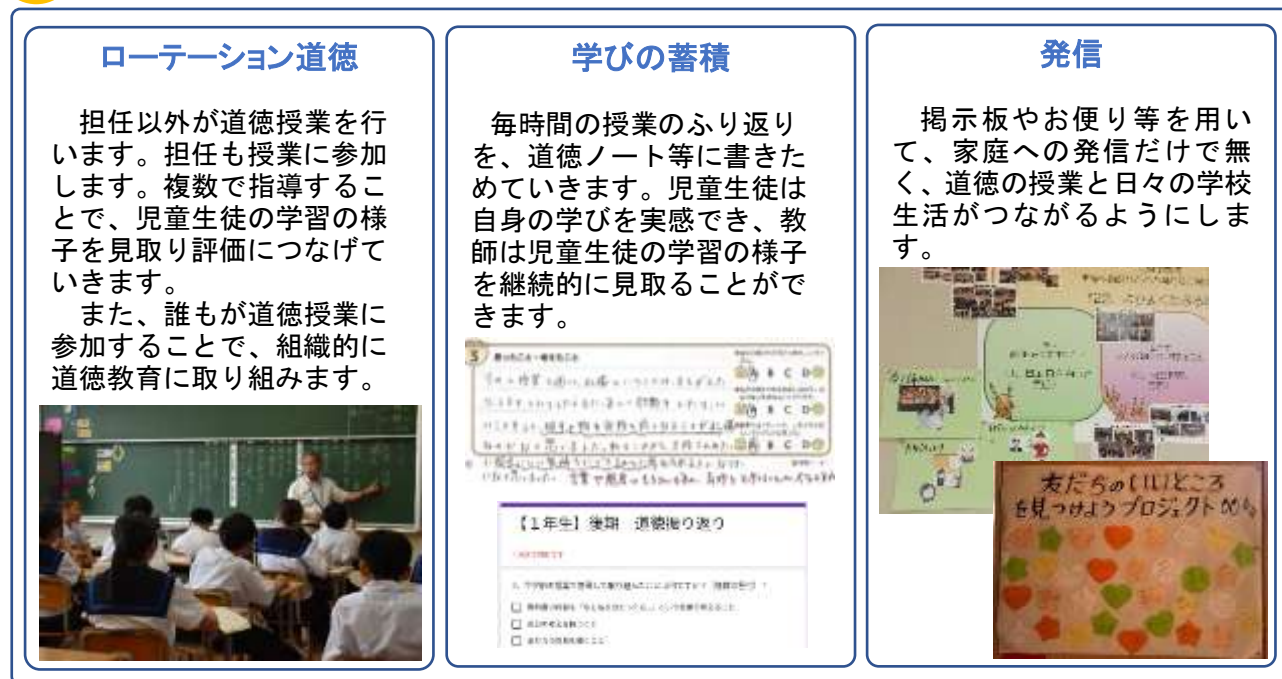


プログラミング学習表評価規準

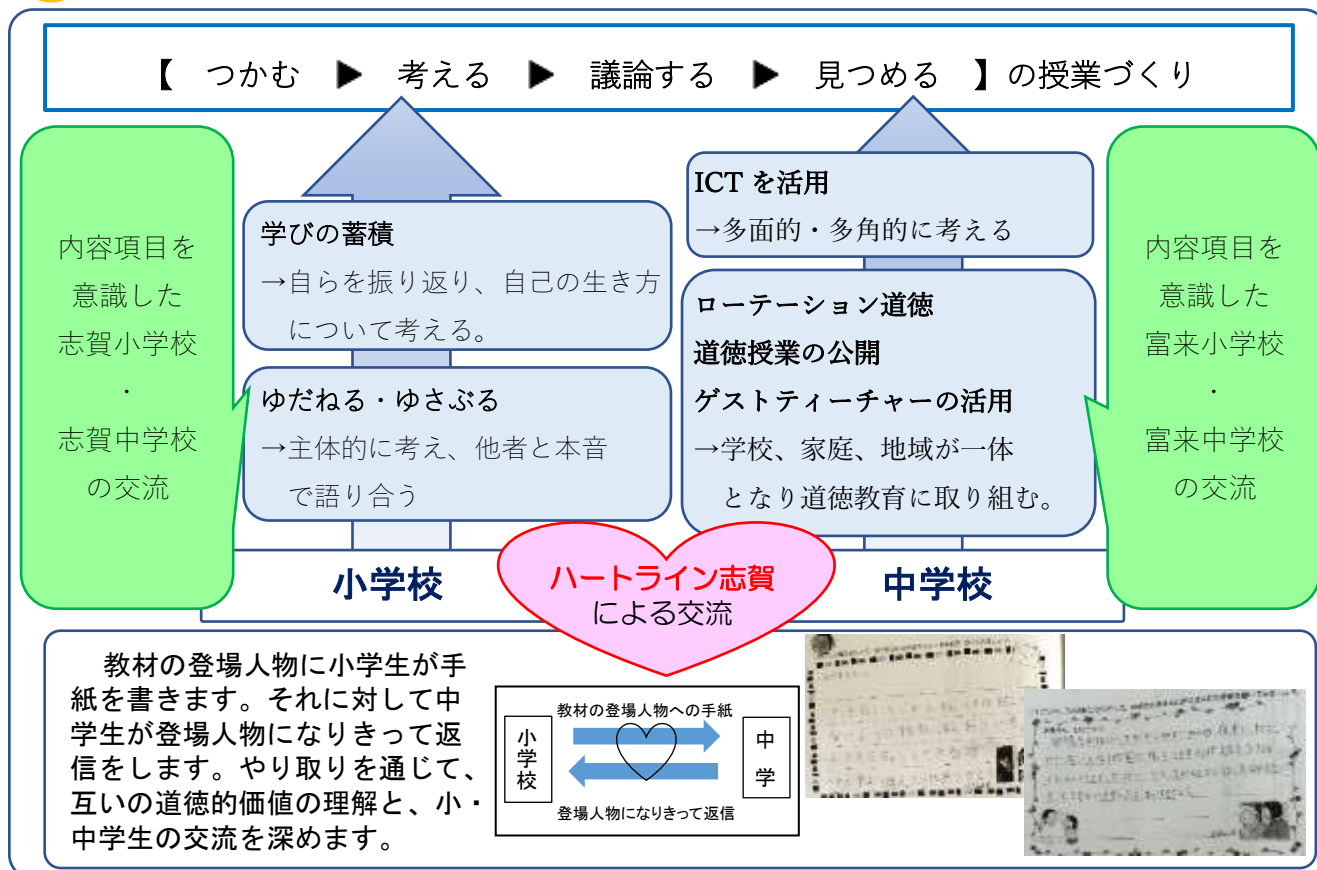
志賀 学習プログラム 道徳教育

道徳科の特性を生かし、小・中学校が連携した実践により、児童生徒の道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てます。

共通の取組(共通実践)



小中連携の取組の工夫



志賀 学習プログラム キャリア教育

キャリア教育とは

- 「今、子ども達には将来、社会的・職業的に自立し、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実践するための力が求められています。この視点に立って日々の教育活動を展開することがキャリア教育です。」（引用：キャリア教育/文部科学省公式サイト）
- 「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育がキャリア教育です。」（引用：中央教育審議会答申）

身につけさせたい力（基礎的・汎用的能力）

- ①「人間関係形成・社会形成能力」（コミュニケーション・スキル、リーダーシップなど）
 - ②「自己理解・自己管理能力」（自己の役割の理解、主体的行動、忍耐力など）
 - ③「課題対応能力」（課題発見、実行力、情報の理解・選択・処理など）
 - ④「キャリア・プランニング能力」（学ぶこと・働くことの目的や意義の理解、将来設計など）
- これらの能力を学校内や、家庭・地域社会の中で身に付けさせていきます。

志賀町 4 校共通実践



- 「キャリア・プランニング能力」の育成に重点を置いた実践を行います。

【キャリア・プランニング能力】のとらえ

児童生徒が、将来の生き方や働き方を見通し、自ら目標を立て、その実現に向けて、主体的に行動していく力

具体的には、様々な教育活動を通して、以下を行います。

【将来の生き方や働き方を見通す】

- ・自己理解：自分の興味や関心・強みやよさの理解、夢や憧れを持つ
- ・社会理解：社会の仕組みや様々な職業の理解、諸活動で役割を果たす
- ・学ぶことや働くことの意義や目的の理解：なぜ学ぶのか？働くことは？
- ・進路選択：現在と将来とのつながり、進学、未来に向けた自己決定

【自ら目標を立て、その実現に向けて、主体的に行動する】

- ・目標を立てる：なりたい自分を描く・目標を具体化する
- ・計画を立てる：目標実現に向けて、何をすべきか考える・行動を自己調整できる
- ・その実現に向けて、主体的に行動する：挑戦する、
- ・修正する：振り返り、次に向けて改善できる

小学校1年生～中学校3年生を通して連続性のある学びとなるよう育成を図ります。

- 「キャリア・パスポート」の活用を通して、児童生徒の「キャリア・プランニング能力」の成長が見えるようにします。

志賀 学習スタイル —D & Y—



小学校・中学校の9年間スパンで学力向上を図ります。

また、育成すべき資質・能力につながる系統的な学びを培います。

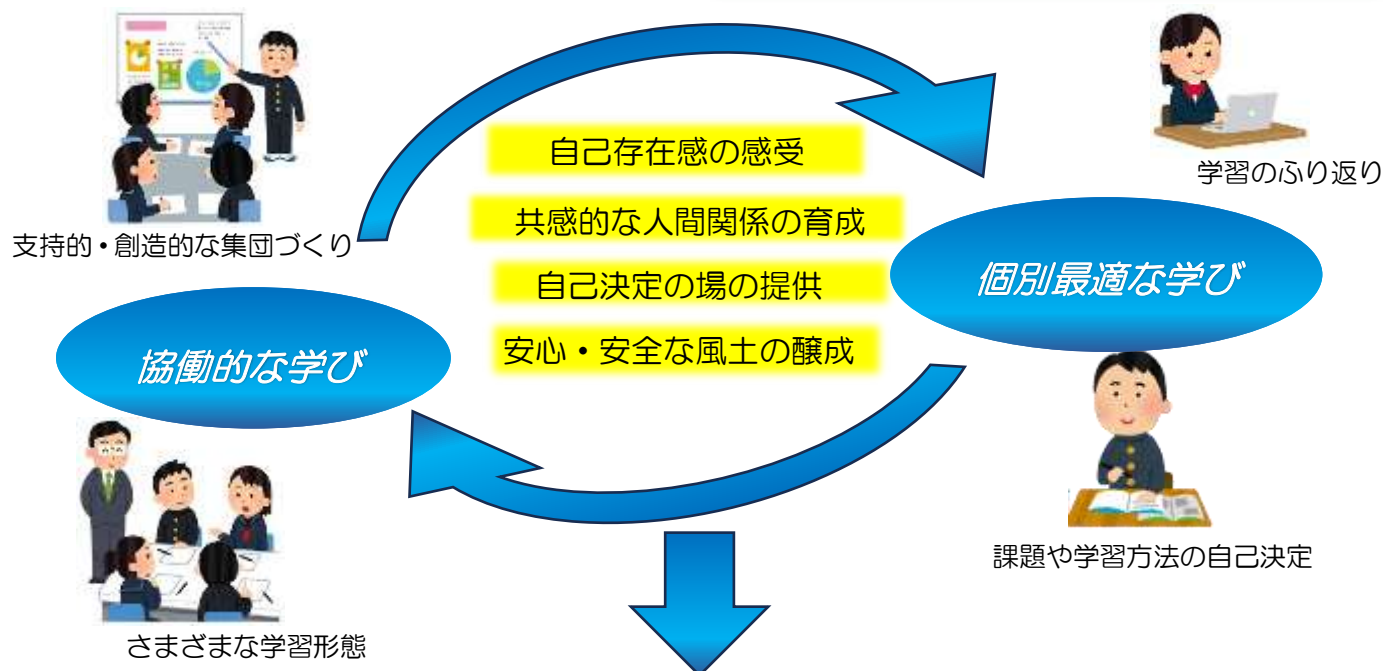
これらの目的を実現するために、志賀町4校で、小中連携の視点を持ち、日々の指導の工夫や授業改善に努めます。

D デザインする

- 児童生徒と教師が学びのゴールを共有し、見通しのある子ども主体の学習を目指します。
- 児童生徒の姿を想定し、価値づけや支援方法を準備しておきます。
- 教科等横断的な発想や学びのゴールを意識して単元をデザインします。

Y ゆだねる

- 児童生徒が自己決定した目標や課題に主体的に学習に取り組む時間を計画的に設定します。
- 自己の学習をふり返り、次時の学習につなげる自己調整力を養います。



深い学びへ

- 「変容」：既知の志向を更新・再構築している
「発見」：新たな知識を生み出したり、見出したりしている
「探究」：学んだ事象や対象をより掘り下げようとしている
「活用」：学びを日常事象や他での学びと関連づけている

(志賀町が目指す子どもの姿)

志賀 学習ベース 学校・地域連携

家庭・地域との連携を基盤に、「つながり」を深め、小中連携を進めることで「学び」を支えます。

共通の実践

児童・生徒交流事業

- ・小学生と一緒に活動する内容を中学生が企画し、交流します。
- ・ピア・サポート
- ・体験授業

P T A 等連携事業

- ・各中学校区で小中合同事業を企画し、ともに学びます。
- ・小中合同地区PTA
- ・非行被害防止教室

地域連携事業

- ・体験と継承を目的に、地域の方と一緒に活動します。
- ・地区祭礼
- ・地域の先生

生涯学習事業

- ・志賀町行事やボランティア活動に参加し、活動します。
- ・町文化祭
- ・世界一長いベンチペンキぬり



ピア・サポート

小学生の悩みに中学生がアドバイス



小中合同挨拶運動



小中レクリエーション交流



クラブ活動・部活動



志賀小・富来小
器械運動交歓会と交流会



田植え・稲刈り体験

【今後の方針】

家庭や地域との連携を継続し、体験や協働を大切にすることで、小中9年間の学びの土台を築きます。また、教員同士の情報交換や相互授業参観等の機会も定期的に設定し、学びを支えます。

志賀町民憲章（平成23年4月1日制定）

私たち志賀町民は、雄大な日本海と緑かがやく山々に抱かれ、活力ある発展をしてきたふるさとを誇りとし、魅力と笑顔にあふれ、未来に躍進するまちを創るためにこの憲章を定めます。

- 一 豊かな自然を大切にし、水とみどりの美しい町をつくります
○自然環境の保護や環境保全、環境美化に努め、快適で安全なまちを次世代へ継承するものです。
- 一 思いやりとふれあいの心を育み、優しい町をつくります
○お互いを尊重し、支え合い、協力しながら、交流と協働で明るく笑顔あふれるまちを創っていくものです。
- 一 学び合い、創造力豊かな人と文化を育てる町をつくります
○伝統・文化を大切にし、教養を高め、将来のまちづくりを担う創造的な人と地域文化を育てるものです。
- 一 働くことに誇りと喜びをもち、活力ある町をつくります
○夢や希望をもって働き、地域の振興に努め、活気と賑わいのあるまちを創造するものです。
- 一 スポーツに親しみ、健やかに暮らせる町をつくります
○健康づくりに努め、医療・福祉環境などの充実により、安心して元気に暮らせるまちづくりを進めるものです。



発行：令和 8 年 4 月 志賀町教育委員会

〒925-0198 志賀町末吉千古 1 番地 1

TEL：0767-32-9360

FAX：0767-32-3933

E-mail：gakko-kyoiku@town.shika.lg.jp